

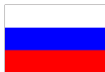


## 【韓国】 総合指数は0.2%高と反発、今週は韓国中銀が基準金利を発表へ

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.2%高と反発した。休場明けの15-16日は買い優勢の展開となり、連日で1月25日以来3週ぶり高値を更新した。2月上旬の韓国の輸出が前年同期比で69%増えるなど半導体や自動車の出荷が引き続き好調な中、新型コロナワクチンの普及に伴う世界景気の回復期待が重なり、投資家が運用リスクをとる姿勢を強めた。一方、17-18日は続落し、節目の3100ポイントを割り込んだ。短期的な相場の過熱感に加え、米長期金利の上昇を受けた米ハイテク株安や国内のコロナ感染再拡大に対する警戒感が重荷となった。19日は押し目買いが入り、3100ポイントを回復して終えた。今週も主要国による金融緩和の継続見通しや経済活動の正常化期待が相場を支えるか。25日に韓国中銀の基準金利が発表される。

▼指数チャート

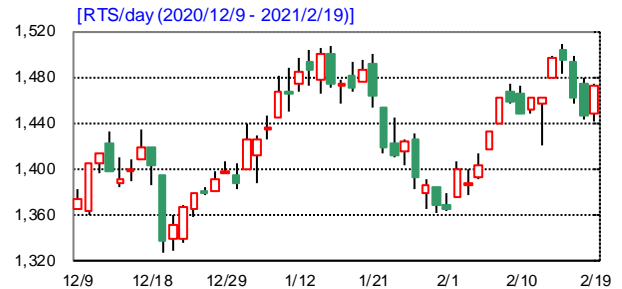


## 【ロシア】 RTS 指数は0.7%高と3週続伸 今週は欧米株価をにらんだ展開か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.7%高と3週続伸。欧米株や原油相場の動きをにらみつつもみ合ったが、コモディティ価格の上昇を好感したノリリスク・ニッケルなどが大幅高となり、指数を押し上げた。週前半は海外株高や原油高が支援となったものの、週後半に原油相場が反落した上で高値警戒感も台頭し、上値を圧迫する要因となった。ただ、コモディティ価格の上昇を好感したノリリスク・ニッケルが1週間で10.8%高と急伸したほか、時価総額最大のズベルバンク・オブ・ロシアも2.0%高となり、相場を支えた。RTS 指数は16日の場中に昨年2月以来となる1508.95ドルまで上値を伸ばし、その後、1440.40ドルまで反落したが、結局3週続伸して週の取引を終えた。今週は欧米株価や原油相場をにらんだ展開が続くか。

▼指数チャート

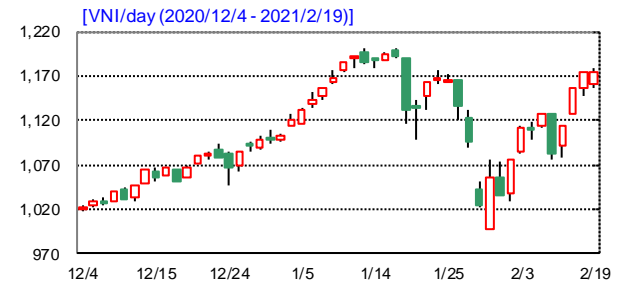


## 【ベトナム】 VN 指数は5.3%高と反発、今週はテト明けの株高アノマリーが続くか

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で5.3%高と大幅に反発。旧正月（テト）明けの株高アノマリーが意識され、大型優良株を中心に全面高となった。先週は16日まで旧正月の休場で、3日間の取引。7連休明けの17日はVN指数が前営業日比3.7%高。連休中の出遅れ感も重なり、大型優良株を中心にほぼ全面高の展開だった。指数は18日も1.6%高と続伸。19日は0.1%安と小幅に反落したものの、1月中旬以来の水準を回復した。個別では、ゴム製品のベトナム・ラバーが16.8%高と急伸し、エネルギーのベトナム石油総公社（ペトロリメックス）が6.0%高。金融銘柄ではアジア・コマーシャル・バンクが8.9%高、ベトナム投資開発銀行が8.1%高、テクコムバンクが7.5%高となり、指数を押し上げた。今週はテト明けの株高アノマリーが続くか。

▼指数チャート

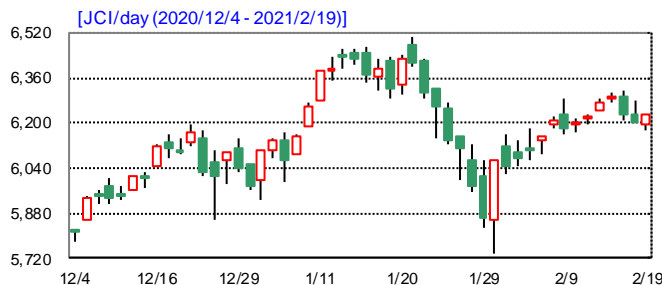


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.2%高、中央銀行が 3 会合ぶりの政策金利引き下げを決定**

ジャカルタ総合指数は週間で 0.2%高と 3 週続伸。週末の反発が指数を支えた。連休明けの 15 日は、前週末の NY ダウが過去最高値を更新した流れを引き継ぎ、3 営業日続伸。16 日も買い優勢の展開が続いたが、17 日は景気回復期待を受けた米長期金利の上昇を背景に米ドル高ルピア安が進んだ影響で、指数は前日比 1.0%安と反落した。18 日は中央銀行が景気支援策として、政策金利を 3.50%に引き下げたものの、今年の経済成長率を下方修正したことが嫌気されて指数は続落。一方、19 日は引け際の買いが奏功し、反発して引けている。今週はパウエル FRB 議長の議会証言など、外部要因に左右される展開か。

### ▼指数チャート

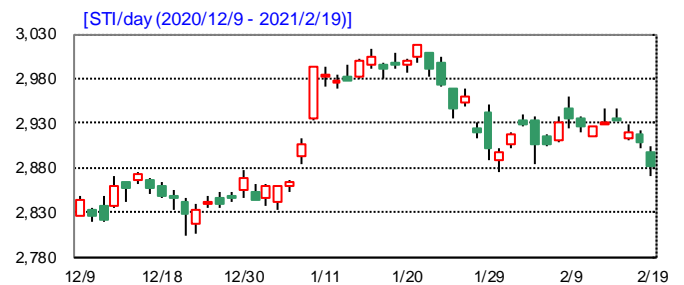


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 1.5%安、今週は 1 月の鉱工業生産に期待**

スレーツタイムズ指数は週間で 1.5%安と 3 週ぶりに反落。週半ば以降の下落が響いた。連休明けの 15 日は、20 年 10-12 月期の GDP 確定値が前年同期比 2.4%減と速報値の 3.8%減から上振れした効果で指数は 3 営業日ぶりに反発。16 日は同日に発表された 21 年度予算案に盛り込まれた新型コロナ対策や財政赤字の削減計画が買い材料となり、小幅に続伸した。ただ、17 日は 1 月の非石油地場輸出が市場予想を上回ったものの、利益確定売りが出て反落。18 日に続落した後、19 日には終値で前日比 1.0%安と 2900 ポイントを割り込んで引けた。今週は 23 日に 1 月の CPI、26 日に鉱工業生産が発表される予定。

### ▼指数チャート



## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.5%安、今週は 1 月の貿易統計に対する市場の反応が焦点**

SET 指数は週間で 0.5%安と 3 週ぶりに反落。週前半の上昇分をその後の下落で帳消しにした。連休明けの 15 日は、20 年 10-12 月期の GDP が前年同期比 4.2%減と市場予想の 5.4%減から上振れた効果で、指数は前営業日比 1.0%高と 3 日ぶりに反発。16 日も小幅に上昇したが、週半ば以降は米ドル高バーツ安などの影響で、19 日まで 3 日続落して取引を終えている。今週は 22 日の 1 月の貿易統計（通関ベース）に続き、25 日には同月の鉱工業生産が発表される予定。鉱工業生産が 2 カ月ぶりに前年同月の水準を上回れば、株式相場の支援材料になりそう。26 日はマカブーチャ（万仏祭）の祝日で休場となる。

### ▼指数チャート

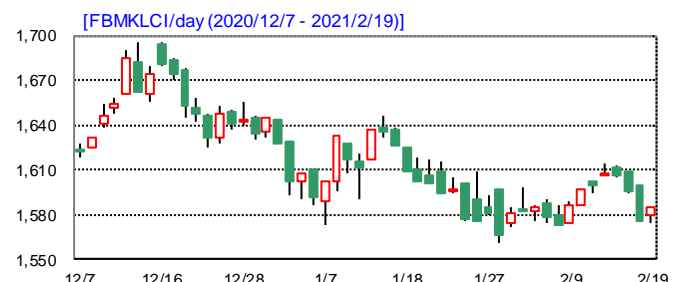


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9%安、活動制限期間の延長を嫌気**

クアラルンプール総合指数は週間で 0.9%安と 3 週ぶりに反落。週前半は終始 1600 ポイント台で推移したが、後半はこの水準に届かず軟調だった。連休明けの 15 日は、世界的な景気回復期待や中東情勢の悪化懸念を背景にした原油価格の上昇で指数は 4 営業日続伸。ただ、16 日に小幅反落すると、17 日はクアラルンプールを含む一部の地域で、活動制限期間が 3 月 4 日まで延長されるとの報道が嫌気され、終値で 1600 ポイントを割った。週後半は 18 日に金融株が下げを主導し、前日比 1.2%安と 3 日続落したが、19 日は反発して引けている。今週は 24 日に 1 月の CPI、26 日に貿易統計が発表される予定。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。